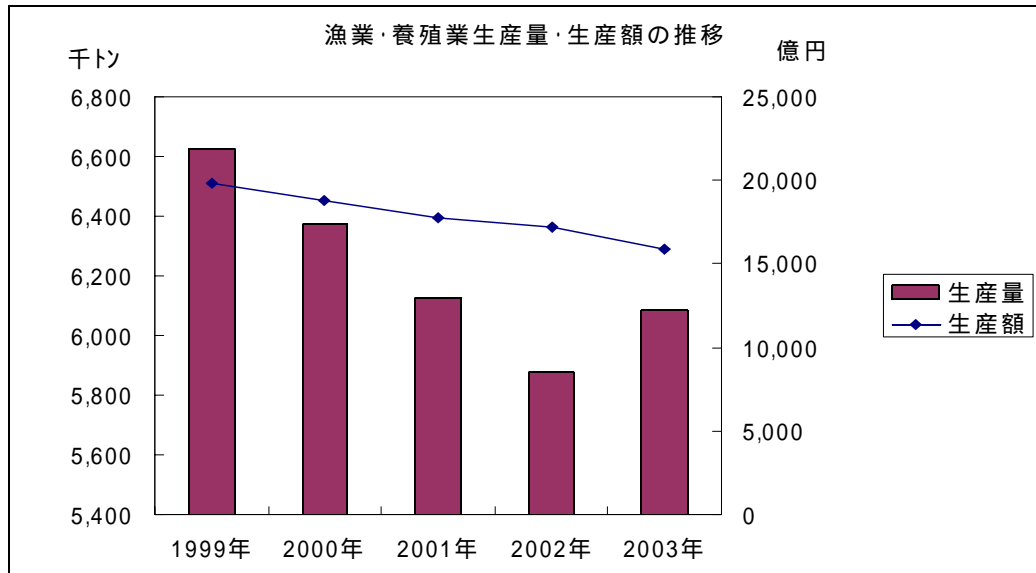


「生産者（漁業者）から見たリスクコミュニケーションと食育の進め方」

全国漁業協同組合連合会常務理事 新蔵敏彦

1. わが国漁業の現状



資料：水産白書

漁業就業者数の推移

単位：人

	1983年	1988年	1993年	1998年	2003年
沿岸漁業	343,417	313,912	275,198	237,507	209,461
沖合・遠洋漁業	103,119	78,480	49,688	39,535	28,910
計	446,536	392,392	324,886	277,042	238,371

資料：水産白書

2. リスク管理に関する産地における取組

(1) 衛生管理への取組

食の安全安心が求められる中、産地市場等での衛生管理の高度化への取組が進められている。

【事例】

ビブリオ対策：1998～99年に腸炎ビブリオによる食中毒が大発生し、産地における水産物の取り扱いの高度化が強く求められた。その後、温度管理や使用水に関する対策などが進められ、発生件数は減少してきている。

腸炎ビブリオによる食中毒発生状況

年	発生件数	患者数
1996	292 (24.0%)	5,241 (11.3%)
1997	568 (29.0%)	6,786 (17.0%)
1998	839 (27.9%)	12,318 (26.7%)
1999	667 (24.7%)	9,396 (26.7%)
2000	422 (18.8%)	3,620 (8.4%)
2001	307 (15.9%)	3,065 (11.9%)
2002	229 (12.4%)	2,714 (9.8%)
2003	108 (7.1%)	1,342 (4.6%)
2004	205 ()	2,773 ()

注)()内は全食中毒に対する割合

資料：厚生労働省HPより抜粋

(2) その他のリスク管理

【事 例】

ホタテ、カキなどの貝毒等による食中毒防止のため、道県が定めた条例や指導指針等にしながら、監視体制の構築や海域毎の管理を行っている。

3 . 食育・魚食普及

(1) 魚食普及

・魚介類の健康面での有用性をアピールや調理方法の紹介などを中心に、魚食普及を進めてきた(D H A、 E P A など)。(「おさかな天国」もその活動の一環)

(2) 体験学習

・小中学生を対象とした体験学習が全国各所で行われている。
ホタテ、ワカメなどの養殖作業。定置網。干物づくりなど。

4 . リスクコミュニケーションの重要性と風評被害

- ・情報の伝わり方によっては、消費者の不安を煽り風評被害が引き起こされる。
- ・生産者としては、経済的なダメージが大きい風評被害の発生を最も恐れている。
- ・消費者をはじめとして関係する人たちに正確な情報を伝え、理解を得ることにより風評被害を避けられる。そのためにリスクコミュニケーションが重要となる。

【魚介類に含まれるメチル水銀に関するリスクコミュニケーション】

2003 年 6 月公表では消費者の不安を煽り、キンメダイについて風評被害が拡大した。

突然の公表で詳細な説明もなかった
センセーショナルなマスコミの報道
潜在的な水銀に対する恐怖心

2005年8月の注意事項(案)の公表時には、改善された点も多く、前回のよう
な混乱は見られなかった。

食品安全委員会での意見交換会
公表内容の分かり易さ
マスコミの冷静な対応

5. 今後に向けて

(1) 生産者として

- ・ 漁業の生産現場については、まだまだ知られていないことが多く、誤ったイ
メージを持たれていることもある(例えば養殖魚が抗生物質漬けになってい
るとのイメージ)。
- ・ 消費者に魚介類や漁業のことをもっと広く知ってもらうことが重要であり、
魚食普及や食育にさらに積極的に取り組んでいきたい。

(2) 行政への要望

- ・ 情報の充実。
- ・ こまめなリスクコミュニケーション。
- ・ 意見交換会の内容が出来るだけ広く認知されるような努力。